

⑩実用新案公報

④公告 昭和44年(1969)6月26日

(全2頁)

1

④液体塗布容器の改良

①実 願 昭42-39741
②出 願 昭42(1967)5月12日
③考 案 者 野沢孝光
東京都杉並区上荻2の17の10
④出 願 人 株式会社吉野工業所
東京都江東区大島3の2の6
代 表 者 吉野弥太郎
代 理 人 弁理士 渡辺軍治

図面の簡単な説明

図面は本案液体塗布容器の実施例に関するもので、第1図はこれの要部を切断して示す側面図、第2図はこれをそれぞれ関係状態のもとで分離して示す斜視図である。

考案の詳細な説明

本案は液体塗布用として容器口に配置せる適宜材質のスポンジ体に対し、容器押圧により含浸させた液体が容器の復元作用で収容液体内に吸入され、この収容液体を汚損するが如き欠点を除去するためとして、この種液体塗布容器に改良を加えた考案に関するものである。

以下これを実施するためとして例示せる図面にもとずき説明すると、適宜弾性材にて復元力を発揮し得るよう形成せしめた液体収納用の容器主体1の開口面に液体導出用のパイプ2を垂架連通設せる中栓3を嵌合配置し、かつ該容器の開口外周縁に密嵌するキャップ体4の頂部に空気孔5を予め縦貫穿孔せる液体含浸塗布用の適宜材質より成るスポンジ体6を底段部7と遊離した態様で接着配置し、さらに該底段部中央にこれの上下面方向に位置せしめた弁8、8'連作動用の垂直杆9を挿通するための空気流入用孔兼用の孔10を穿孔せしめると共に、この孔10を中心とした外方面にして、該弁8の降動接触により閉塞せしめ得るような範囲面に液体通流用の孔11、11……を穿設した上、前記弁8にこれの降動時、前記空気孔5と孔10とを連通するような空気孔12……

2

を設けて通気可能となし、しかも弁8、8'の昇動により孔10を完全に閉塞するよう配設装備して成る液体塗布容器が示されている。

しかして本案の液体塗布容器は前述の如き構成構造より成るものとしたから、すなわち液体をスポンジ体6に含浸使用するに際しては、容器1を押圧することで収納液体はパイプ2を通流し、キャップ体4の底段部7方向に圧流する。この時弁8、8'は昇圧され弁8は液体通流用の孔11、11……の閉塞を解除すると同時に弁8'は孔10を閉塞する。よつて圧流液体は孔11、11……を通過してスポンジ体6に含浸する。また、この容器圧押を解除することで、弁8、8'は容器復元力による吸気運動等により降下し、孔11、11……は閉塞される。しかるにこの容器復元に要する空気は、スポンジ体6の面より吸入することなく、このスポンジ体に設けた空気孔5、弁8に設けた空気孔12、12……及びキャップ体に設けた孔10等を介して導入されるので、この容器復元は適確に期し得る等の作用を発揮し、従つてスポンジ体に一旦含浸せる液体が容器内に吸入されて汚損するかの如き従来欠点を適確に防止する等の実用上有益な効果を有するものである。

実用新案登録請求の範囲

25 適宜弾性材にて復元力を発揮し得るよう形成せしめた液体収納用の容器主体1の開口面に液体導出用のパイプ2を垂架連通設せる中栓3を嵌合配置し、かつ該容器の開口外周縁に密嵌するキャップ体4の頂部に空気孔5を予め縦貫穿孔せる液体含浸塗布用の適宜材質より成るスポンジ体6を底段部7と遊離した態様で接着配置し、さらに該底段部中央にこれの上下面方向に位置せしめた弁8、8'連作動用の垂直杆9を挿通するための空気流入用孔兼用の孔10を穿孔せしめると共に、この孔10を中心とした外方面にして該弁8の降動接触により閉塞せしめ得るような範囲面に液体通流用の孔11、11……を穿設した上、前記弁8にこれの降動時、前記空気孔5と孔10とを連通するような空気孔12……を設けて通気可能とな

3

4

し、しかも弁8、8'の昇動により孔10を完全に閉塞するよう配設装備して成る液体塗布容器の

改良。

図1

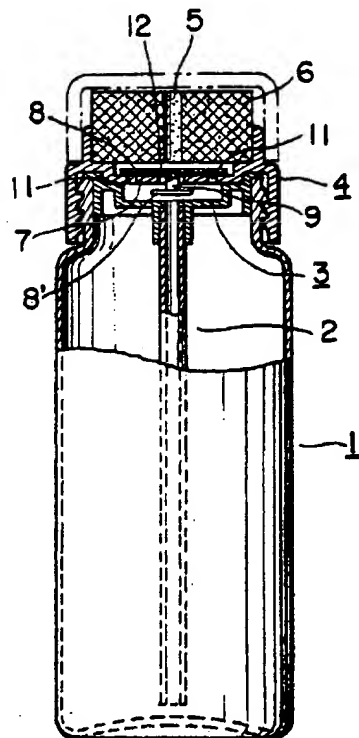
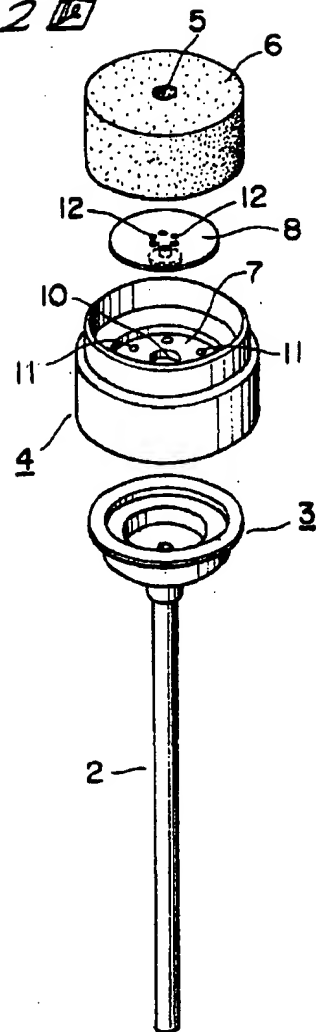


図2



BEST AVAILABLE COPY